

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

対話の内容

市長のあいさつ(はじまり)

内容

市長のあいさつ(終わり)

第16回目となる今回は、市内の近文東、近文西、北星、川端、旭星、旭星西地区にお住まいの方をはじめとする市民の皆さんと懇談しました。

50の方が参加し、地域特有の課題や、市政やまちづくりに対する意見など、活発な意見交換が行なわれました。



日時	平成19年9月6日(木) 午後6時30分～8時
場所	旭川市北星地区センター 大ホール(旭川市旭町2条8丁目)
出席者	・西川市長 ・市民(50人)

対話の内容

※参加者はアルファベット(A～H)で表しています。

同じアルファベットの表記は同一人であることを示しています。

市長あいさつ

おばんでございます。ご紹介をいただきました市長の西川でございます。昨年11月の就任以来、10か月ほど毎日まちづくり、市政にまい進をさせていただいておりますが、今日は市内6地区市民委員会の皆さまを中心にこの北星地区センターで対話集会を開催させていただき案内をさせていただいたところ、多くの皆さまにお集まりをいただき、本当にありがとうございます。この地区以外の方も見えられていると思いますが、そういった方もそれぞれの地域のお話しをしていただいても一向に構いませんし、この地域の課題や、全市的なお話しなどをしていただいても結構でございます。1時間半、8時位までの限られた時間ではありますが、できるだけ多くの方にいろいろなご意見を発表していただき、また私どもも聞かせていただく機会をいただければと思います。これまでの対話集会の中で、まちづくり、市政の中で生かしていきたいというようなこともたくさんございました。すぐできるもの、若干時間のかかるもの、公園、道路、橋の整備など予算の問題で時間のかかるようなものもございますが、比較的すぐにできるようなことも、身近な話からたくさんあるかと思っておりますので、ご意見をいただければと思います。

また今朝の新聞に、道営北海道競馬が旭川競馬場から撤退するという記事が大きく載

っております。今後、道から正式な話が来て、それを見極めてからでないとい市の対応はできませんが、ばんえい競馬に続き北海道競馬も止めてしまうということになった場合、馬の文化というものがなくなってしまうのは、非常に寂しさを感じざるを得ません。道も非常に厳しい財政状況の中で、毎年多額の赤字を発生している道営競馬の経営を、旭川のみならず全道的に見極めていくという時期にあるのではないかなと思っております。

また先日、市の職員が結核に感染したという新聞記事が出て、市民の皆さんにご心配をおかけしましたかと思っておりますが、こちらの方も保健所の指導のもとで適正に対処し、この感染につきましては、該当者は今しっかりと治療に当たっているところでございますので、是非安心して市役所にお越しいただきたいと思っております。



今日の皆さんの地域は本当にいろいろな部分が融合したような地域になっておりますね。すぐそこには昔の木材を運んだ線路の跡地があり、今は散歩道になっておりますし、木材屋さんがたくさん集積していたという地域でもあり、今はショッピングセンターに変わっておりますね。また新道や国道40号線、鷹栖インターチェンジがすぐそこにあり、交通量もたくさんある地域でありますし、また住宅街としても16,600世帯、33,500人の方がこの地域にお住まいになっているとお聞きしております。またすぐそばには嵐山もありますし、陶芸の里などの文化的な地域もすぐそばにある地域でありますので、いろいろなライフスタイルを楽しむことができる地域でもあるのかなと思っております。

今回のまちづくり対話集会というのは、これは私の選挙の時の公約でございますが、市民の皆さんとの対話はもちろん、いろいろな業界団体、また市外の方など、いろいろな方々との対話も含めて、その対話から市政、行政を動かしていきたいという思いでこの取組を継続させていただいております。4年間の任期の間、最後までいろいろな地域、団体の皆さんとの対話を継続していきたいと思っておりますので、是非ご理解をいただければと思っております。

旭川市においてもいろいろな問題があるかと思っております。経済・景気の問題、また若い人たちの雇用の問題、これもなかなか深刻な部分が多々ございます。ひとつひとつ私たちの得意分野を伸ばして、何とか地域の安定した雇用をつくっていかねばならないということは私ども行政の立場からも最重要課題ということで取り組んできております。その中で、例えば旭山動物園は非常に好調で多くの方に来ていただいております。残念ながら、まだその旭山動物園効果が地域の経済全体を底上げするところまでは至っていないという問題点も含んでおりますが、観光、お土産屋さん、食堂などではそれぞれが非常に売り上げを伸ばしているという状況です。先日、動物園の経済効果について試算させていただきましたのですが、旭川市において大体300億円程度の経済効果を毎年もたらしているという試算が出ております。今後、動物園がどういう形になっていくのか、いつかはピークが来ますけれども、そのピークを過ぎた後に300万人が200万になるのか150万になるのか分かりませんが、なるべく高いレベルで高止まりをして、10年、20年と多くの方に愛される、その中でも特に市民の皆さまに愛される動物園ということで、これからもしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

動物園の件で一つPRさせていただきたいのですが、テレビドラマはこれまでに何回も全国放映されておりますが、今度、映画のロケが入ることになりました。「旭山動物園物語」という津川雅彦さんが監督の映画が来年に全国ロードショーとなる予定でございます。

動物園もそうですが、今、旭川空港が特に台湾や中国など雪を見たことがないといった観光客がすごく増えており、韓国のソウルから定期便が週4便飛んでいます。台湾からは年間300便位のチャーター便が来ておりますので、大体毎日来ています。こういったことも観光で今後は是非取り組んでいきたいと思っている課題の一つでもあります。今、旭川空港は年間の乗降客数が127万人で、5年位前には100万人を切っておりましたので、これもすごい数です。北海道では千歳空港が断トツで2千数百万人、函館空港が一番多い

時で300万人位だったのですが、今は二百数十万人と少し落ち込んでいます。落ち込んでいるのは旭川が増えているからだと思いますが、何とか将来は函館空港を抜いて旭川空港が北海道第2の空港になったらいいなということで、これからも取り組んでいきたいと思っております。そのような中、来年の4月から新しい航空会社が参入していただけるということで今、準備を進めております。旭川羽田間の航空運賃がかなり安くなるだろうと予想されます。また市民の皆さんの利便性も向上し、今まで千歳経由で旭川に来た人も今度は旭川空港に直接来るという方もかなり増えるのではないかな思っております。

今年も新潟で大きな地震がありました。避難されている方や家が壊れてしまって、もとの暮らしに戻っていない方もたくさんいらっしゃると思っておりますが、私たちが住んでいる旭川というのは本当に天災の少ない、地震の非常に少ない地域として優位性を持っていると思っております。これは公式な資料にも出ていますが、この旭川の地域の岩盤が非常に堅く、釧路などの方で地震がおきても、旭川は非常に小さい震度1か2で、旭川を通り越して向こうの札幌や留萌の方に行くそうです。そのような中、全国の会社、特にコンピューター、ソフトウェアなどの精密機械、部品を扱う会社が、今回の地震を教訓として全国の安全な所に大事なデータを移したり、また工場を分散してリスクを分散するという動きが今非常に高まってきていると聞いております。そういったことで沖縄の方に進出しているということも聞いておりますが、是非私どももこれを旭川の一つの売りとして、会社の大小にとらわれず一つでも二つでも進出してもらえるように企業誘致を進めるための取組をしていきたいと思っております。東光の方に総合防災センターを建設しておりますが、これが完成しますと、旭川だけでなくこの上川中部1市8町の防災の拠点施設となり、この旭川の役割もますます重要になり、万が一の備えとして一つの拠点になるのではないかなと思っております。

また、今、市の機構改革について、来年の4月に新しい組織でということで庁内で議論をしております。行政の効率化という課題もありますが、もう一つの大きな課題はやはり市民の皆さんに分かりやすい、使いやすい市役所について、特に窓口というのはやはり一番市民の皆さんと接する所でありますので、窓口の利便性をどれだけ向上できるかだとか、また、市内各所にある支所の機能ということで、高齢社会の中、お年寄りの方で特に遠くまで車の運転をする方はどんどん少なくなってきましたし、遠くまで出ないでなるべく身近な支所で多くの事ができるような支所ができたかと考えており、時間をかけてそういった支所づくりにこれから取り組んでいきたいと思っております。

また道も国もそうなのですが、旭川市の財政状況も例外なく厳しい現状です。夕張が財政再建団体となったことは皆さんも記憶に新しいと思いますが、旭川を第2の夕張にしないということを私はこの場で皆さんに明言、お約束をさせていただきたいと思っております。そのために厳しい財政状況ではありますが、何とかこの財政危機を乗り越えて、一日も早く安心してもらえるような市の財政健全化に取り組むべくまた今後鋭意努力をしていきたいと思っておりますので、皆さま方からもご理解いただければと思っております。

今、私なりに思っていることを雑ぱくでございますが、お話しをさせていただきましたが、この後、今日ご参加の皆さま方からご意見をいただければと思っておりますので、どうかよろしくお願いを申し上げます。

参加者A

先ほどの市長のあいさつの中で、旭川は地盤も強く、防災センターもできるということを知って大変心強いのですが、もし万が一災害が発生した時に、どこの町内でどれだけの人が災害に遭い、またどれだけ死傷者が出ているかということ、どうやって把握するのか教えてほしいと思っております。

次に地域の問題ですが、近文東地区と近文西地区の2つの市民委員会の境界をどのように分けているのか教えて欲しいと思っております。

市長

災害状況の把握ですが、震災がどこでどのように起きているのかというのは、空から見

るのが一番分かると思います。旭川市では防災計画を策定し、それに基づいて私どもも訓練をしているわけですが、9月2日も石狩川の堤防が決壊してこの地域が浸水したということで新町小学校と大町小学校で訓練をさせていただきました。災害発生時には例えば消防、警察、自衛隊、これら全てが有機的に機能することによって、まず災害がどこでどれくらいの規模で起こっているかというのを特定する、それが一番の現状を把握する方法だと思います。その後どういう救助、援助が必要という段階に入ってくるとは思います。これもぜひ私どもは各機関と連携をとって、そしてまた地域の消防団の方々ともしっかりと連携をとっていかなければならないと思います。建物の中に埋まっているだとか、被災者を一刻も早く救助できるような日頃からの準備、心がけが必要だと思います。昨年、市内全域の洪水時のマップ、浸水時の危険箇所や避難所のマップを、全戸に配布させていただきましたが、忠和、近文東、近文西地区などこの地域は土地の低い地域にあたりますので、洪水、台風などが発生している時は非常に危険な箇所であるという意識は是非持っていただきたいと思ひますし、洪水でなければこの地区センターもそうですし、学校に避難をしていただくことができるのですが、もし浸水が始まってくるといふことになれば、大町、旭町方面に向かっていたいただきたいということ、皆さんに知っていただきたいと思ひます。

参加者A

例えばどれだけの方が行方不明になっている、犠牲になっているかということについては行政の方で把握するので、町内会としては、特別協力するということはないというように理解してよろしいでしょうか。

市長

いえ、それは行政だけでは無理ですので、町内の協力があるということが前提であります。災害が起きた時に3つの大きな柱があります。「自助」、「共助」、「公助」というのですが、「自助」というのはまず自分のことは自分で守って、自らの安全を確保するために安全な所に避難する、これがまず第一です。次は「共助」。これは隣近所、町内会の皆さんが共に助け合って情報交換して、困っている人がいたら助けてあげる。それは例えば町内会であったり、会社でもあるかもしれませんし、市民委員会や老人クラブかもしれません。それがまず2つ目に大事なことです。そして3つ目の行政が行う「公助」というのはライフラインの確保、例えば水、ガス、火の確保ですとか、瓦礫の下に埋まっている方を1日も早く救助するために自衛隊や消防、警察への要請ですとか、また各地域の皆さんからの情報をどう結びつけて効果的に活動していただけるかということ、こういう3つの大きな原則があります。災害の発生時にはあまり考えている時間も余裕もないかもしれませんが、極力冷静に対応していただいて、町内の方々も共に助け合うということで乗り切っていたきたいと思ひます。

区域割のお話しですけど、近文東と近文西ですね、手元に地図がありますが、この境界は川ですか。部長からお話しはありますか。

生活交流部長

住宅地が広がったり、町内会が増えたり減ったりする中で、市民委員会や町内会同士の話し合いで境界が決まってきたということもあったと思ひます。多分近文西と近文東地区は、基本的に川が境界線になっているのかなと思ひても道路がそうであったりもしていますので、どうしてこういう形の境界なのかということになると、多分そういう話し合いの中で線引きされてきていると思ひますので、ご理解願ひます。

参加者A

私は敬老会に10年くらい携わっていますが、毎年、近文西と近文東地区の対象者が入れ替わるのです。市からいただく名簿の中で、東地区の人が西地区の名簿に入っています。もう何年も、「この方は東地区の人ですよ」と言って名簿を返しても、次の年はまた同

じで修正されていません。昨年、地元の新聞販売店が詳細な地域分けの地図を作ったので、それを市に持って行き説明したのですが、今年も全く改善されておられません。もう10数年このような状態です。

近文地区は昭和43年頃に西と東に別れたのですが、その時点で市民委員会の区域の把握をきちんとしていなくては、町内の把握もできないのではないのでしょうか。何故、境界の把握をきちんとしていないのでしょうか。やはりもっと地域の実態をきちんと把握して行政をしていかないと困ります。

また、市からもらった名簿の住所には、引っ越しや、施設に入っていて住んでいない場合が多いです。もっと実態を把握すべきです。

生活交流部長

敬老会のお話しですが、多分、縦割り行政の一つの弊害があるのかもしれないのですが、市民委員会の区域分けと同じラインになっていないというのは、多分除雪なども含めていろいろな縦系列の計画の部分において出てきているのかもしれない。

全ての事業において市民委員会の区域分けを元に行っているわけではありませんが、今お話しされたように、保健福祉部の中で、いつも同じ事で訂正されないとか修正されないとかがあるとすれば、関係部局に伝えて、事業をやる中で修正できるものは直していきたいと思えますし、関係部局にも伝えたいと思えます。

参加者A

この件については、防災にも言えることだと思います。我々の地域、町内会はもちろん協力しますが、災害が起きた時に、行政の区域割りと、市民委員会の区域分けが違っていた場合に、どうやって被災者の人数などを把握するのかということを知りたいのです。

市長

また、今の部分について敬老会の名簿の件もありますので、庁内で検討してぜひそういった不都合のないようにいたしたいと思えます。

参加者B

ここ数日の新聞記事で心配なことがいくつかありました。保育料、給食費の未納問題、また生活保護世帯が全道一多いということについてです。またごく最近では市体育協会の着服問題、それから今日は道営競馬の旭川撤退です。

保育料、給食費の未納についてですが、関係者はどのような対応をしていて、今回のように日本一となってしまったのでしょうか。実態と今後の対策をお聞きしたいと思います。次に生活保護世帯が全道一多いということですが、保護申請時の審査が少し甘いのではないかという感じがします。保護受給時にはいろいろと要件があると思いますが、何とか他の自治体並くらいにはしてもらいたいと思えます。

次に、市体育協会の着服の件ですが、職員は襟を正して公金を扱い、今後とも不正がないようにお願いをします。

それから競馬の赤字ですが、6億円位の赤字があると聞いております。もう少し早く気付いて手を打てばこんなに赤字となることはなかったのではないのでしょうか。

市長

保育料については不名誉な結果であり、市が行っている保育料の収納事務を民間保育所に委託することなど様々な観点から検討して徴収率を上げたいと思っています。また、滞納者にはこれまでも相談に応じたり分割納入等もしてもらっていますが、今後もこのような取組を続けるとともに、最後の手段ではありますが、財産の差し押さえなどの厳しい措置も考えています。

滞納された保育料ですが、本当に長い間の分が蓄積されてきております。過去に実際に保育料を未納していた子どもはもう小学校6年生くらいになっているものですから、これ

から回収するのなかなか難しいというのがありますが、少しでも多く未納の部分は回収しなければならぬと思いますし、今後100%に近づけていきたいと思っております。給食費に関しても同じようなことだと思います。

生活保護についてですが、今、旭川市では1万1千人くらいを受給者がいます。市の人口が36万人として約3%くらいです。全国の平均的な自治体は1.5%くらいですので、旭川市は倍の保護率になっております。全国でトップではないと思いますが、あまりいいデータではないと思っております。今から10年くらい前までは、旭川市では保護世帯が今の半分の6千人くらいでした。この10年間で倍増してきております。景気が悪くなったということも大きな理由としてあるでしょうし、また旭川市は医療機関が整っているの、近隣の病院が少ないまちの人たちが移り住んできて生活保護を受けるという方も実際にたくさんいますが、体が悪いから働かせないという診断書を、市で受け取れませんかと言えないんですね。北九州で生活保護の申請に来た人を窓口で追い返して問題になりましたが、国の制度にのっとって旭川市もやっておりますので、決して旭川市で審査が甘いとかいうことはありません。また中には一部でしょうけど不正受給している方がいるかもしれませんが、今、市の保護課の職員が約100人いますが、1万人を100人で担当していますので、一人につき約100人の受給者を担当して責任を持ってしっかり見ているのですが、身近なところでこの人おかしいとか、変だなとかいうのがあれば市の方に通報していただければ、しっかりと対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。また、決して旭川市が審査が甘いとかいうことはありません。全国と同じ基準でやっているということを理解していただければと思います。

また、市体育協会の不正についてです。こちらにも本当に残念なことで市民の皆さんにお詫びをしなければいけないことであります。体育協会は市の第3セクターで、市が出資している団体です。体育協会の他に水道協会など第3セクターがたくさんあります。運営自体をまかせているという部分もありますが、これらの第3セクターに対して今後二度とそういったことがないようにという指導を強化させていただくという対応をとらせていただいておりますし、また告訴しておりますので、約500万円の詐欺ということは明らかになっておりますが、正式にいくらになるのかということがはっきりとした時点で、私ども行政としても体育協会に対して、例えば補助金や委託金の返還などということもやっていかなければならないかなと思っております。体育協会は第3セクターという立場であります、市と無関係だとは言えませんので、市としても身を引き締めていきたいと思っております。

また競馬について、ばんえい競馬ですが今旭川市をやめて、4月から帯広で開催しておりますが、これも大変な赤字でありましたので、本来であれば儲けがあるうちにやめておけばこんなにも赤字にならなかったのだと思います。しかし、競馬関係者の雇用など、いろいろな事情があり、なかなかやめることができなかつたという現状があったと思いますし、北海道競馬につきましても雇用や馬主さん、調騎会の皆さんとの関係があると思っておりますが、事業主が北海道でありますので、道の方で今後どういう決断を下すのか、旭川市としても見守らなければならない立場であります、旭川での開催を廃止、撤退することとを決定したのであれば、今までの借金も清算しなければならぬということもありますし、市としても新たな課題が出てくるのではないかと思っております。また競馬というものひとつの文化でありますし、またそれに携わる方の雇用もありましたし、旭川の市民で競馬を楽しんでいた方もたくさんいらっしゃるの、その辺りについては是非評価をしていただければと思っております。

参加者C

夕張の次は旭川市が破綻するという話を聞いたことがあります、実際のところ旭川市は幾らの負債を抱えているのか市民は知らないと思います。何とかやっていけるようですが、実際のところは大丈夫なのでしょう。今、旭川市には幾らの負債があって、どうしなければならぬのか聞かせてほしいと思います。

今日の新聞に町内会の加入率が非常に悪いという記事が載っていましたが、実際に減っています。しかし市からは市民委員会、町内会にいろいろと頼みごとをしてきます。

また市の職員は1階の窓口ばかり忙しくて、2階より上の職員は本当に市民のために働いているのかなと思っています。

市長

毎年、広報誌に市の借金について掲載しています。なかなかその数字だけを見ても市民の皆さんにとってはピンとこないのかもしれませんが、一般会計が1千400億円位あり、特別会計を合わせると約3千億円弱の会計です。それに対して一般会計の借金が2千億円位で、一般会計、特別会計、企業会計を合わせた借金が約3千億円位です。3千億円というかなりの額だと思いますが、この額が少ないとは私も思いませんし、これ以上増やしてはいけないということで、17年からこの借金を減らす取組を進め、毎年数十億円位減ってきております。私が市長になってからも毎年借金を少しずつでも減らしていくということをお約束をしていきますし、私たちの子どもたちの代に少しでも健全な財政状況で引き継いで残していくということが必要だと思っております。旭川が第2の夕張になるということを言っていた方もおりますが、100%そんなことはあり得ないということを是非ご理解願いたいと思います。実は全道の中でワーストワンから順番がついておりますけれども、1位は夕張ですし、続いて三笠市や歌志内市ですとか産炭地が続いております。その中で旭川市は21番目です。ただ私どももいつもギリギリの予算でやっておりますので、油断していたらすぐに21番目から5番目になってしまうこともあるかもしれませんので、しっかりとやっていかなければならないと思っております。

今、町内会の加入率が50%台です。一番多い時は70数%ありましたので、この10年間位で10%以上加入率が減っております。これについては私たち行政も非常に危機感を持っており、いろんな機会に是非皆さん町内会に参加して一緒にまちづくりをしてくださいとお声かけをさせていただいたりとか、広報誌で町内会の活動を掲載させていただいたりとかいう取組もしているのですが、強制的に加入していただくことにならない任意団体なものですから、行政としても非常にやりづらいところであります。このように加入率が減っている中、今回のごみの有料化もそうですし、行政は何でも町内会に頼み事をしてくるという部分に対してはやはりそういう思いもあるのかなと思っておりますが、それについてはありがたいと思っておりますし、今後、町内会に加入していただける方を増やしていく努力をしていかなければならないと考えております。

また市の職員も一生懸命頑張っておりますが、皆さんに見えない部分の仕事もあるものですから、仕事していないように見えるかもしれませんが、みんなそれぞれの立場で頑張っていると私は思っております。また何か今後気付くことがあれば、どここの課の何々という職員がこんなことをやっているとか言っていただければ、私もしっかりと対応させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

参加者D

町内会や市民委員会の会合などで、市職員の町内会加入と町内会活動への参加について話題になることが多いです。12年程前からこのような話がよく出ています。また加入していても町内会の役員を受けたがりません。市の職員は町内会の役員をすることができないような低い能力なのかと言う人もいます。特にマンションに住んでいる市の職員で、町内会の活動はもちろん、加入もしていない人が多いと思います。これは全市的な状況です。市の職員も一市民ですから、活動に参加することによって、地域の状況をよく把握することができて、仕事にも生かすことができると思います。町内会、市民委員会、行政が一緒になってまちづくりをすることが大事です。このことについて市の方で何か方策はないものでしょうか。

市長

これまでもいろいろなところで同じような意見を何度も聞いており、それについては本当に市民の声として受け止めなければならないなという思いでおります。市民の皆さんに町内会の加入を強制できないのと同じように、職員に対しても強制はできないのですが、

いろいろな機会でも職員に対しても町内会活動に積極的に参加しましょうと呼びかけてはいます。しかし個人的に地域活動、町内会活動が好きではないという人も中にはいるのかもしれませんが。これについて、今後どのようにしていくか真剣に内部で検討していきたいと思っております。

参加者C

町内会活動をしている職員は給料を少し増やして、何にもしていない職員は給料を減額したり、そのくらいの気持ちを持って取り組んでほしいと思います。また、町内会の見本となって活動してくれるような人を採用すべきだと思います。

市長

お気持ちは非常によく分かります。例えば今、人事評価制度というのを市でつくっております。職員を上司が評価するのですが、その中の項目の一つに地域参加ということで、例えば町内会の役員をしているだとか、地域のボランティア活動をどれだけやっているかだとかを人事評価制度に盛り込むなどはどうだろうかとか、今話を聞いていて思いました。今、人事課でも知恵を絞って考えているところなので、どういう形にするか検討させていただきたいと思います。

参加者E

市役所に行っても汗水たらして働いているのは市民課だけで、他の職員はお茶飲んでだらだらとしているのを私は見えています。そういう職員はどんどん人事評価を下げてください。それから部課長ですが、真剣に仕事をしているのかと言いたいです。今3千億円の借金があると簡単に言いますが、どうやって返すつもりですか。私なら今の市職員を半分に減らします。そして必要な人員をアルバイトで雇えばいいんですよ。私は観光ボランティアをして、観光行政の一役を担って頑張っているつもりですが、市も頑張ってほしい。部下を動かすのは部課長ですから、もっと一生懸命頑張ってください。

市長

せっかくなので、今日職員も来ていますので、職員を代表して決意を述べてください。

企画課主幹

実は私は企画課に所属していますが、前職は消防職員です。事故現場や火災の現場で人の生き死にに触れながら仕事をさせていただいております。現場に行くと本当に必死になってしまうんですね、人間のさがとして。ところが消防の中にも日勤職といって事務的な職場があり、そこへ行くと今厳しくご指摘があったような場面というのは出てくるんですね。しかし人間には本質的に現場で見せているような一生懸命やるという、遺伝子の中に組み込まれているのかどうか分かりませんが、そういうものを持っていると思います。ご指摘のあったように我々管理職が、今入ってきている優秀な若い職員のそういう力をどうやって伸ばすのか、どうやって一緒に汗をかくのか、これからこういう厳しいお言葉を頂きながら考えてやっていくこと、それなしに不良債権あるいは大きな負債がなくなることはない肝に命じて頑張ってまいりますので、これからも厳しくご指摘いただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

市長

私もご指摘の件についてしっかりと受け止めて頑張ってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

参加者F

道営競馬がなくなるということですが、道営競馬がなくなるのだったら中央競馬を持ってくればいいのかと思います。今ある競馬場も取り壊さなくてもよくなります。

あちこちのパークゴルフ場に行っていますが、旭川市の河川敷、忠和のパークゴルフ場は芝が非常に悪い状態です。また嵐山のパークゴルフ場は必要のないところにOB杭が打ってあったりして、ひどいコースです。少しずつ改善しているようですが、まだまだ改善が必要だと思います。また事務所のつくり、場所が悪いと思います。私は回数券を購入して使っておりますが、料金を払わないで使用している人もいます。事務所の場所が分からないので料金を払っていないということです。それに利用者もパークゴルフ協会の行事がない時はほとんど来ていないのではないのかなと思います。やはり利益を出すような方法をとっていかないとだめではないでしょうか。

町内会の加入についてですが、転入、転出、婚姻等で市に届け出をする際に町内会加入を呼びかけてほしい。町内会未加入者のごみ排出マナーが悪いのは、町内会に入っていないため、回覧板を見られず、ごみの排出方法を知らないためです。市として町内会加入促進の取組をさらに進めてほしいと思います。

市長

競馬の件ですが、今言われたことも考えられるのですが、競馬場は上川生産農業協同組合連合会(上川生産連)の持ち物ですので、市としては特に競馬場に関わっているわけではないんですね。ばんえい競馬については旭川市でやっておりましたので、市から上川生産連に使用料を毎年払って使わせてもらっていました。道営競馬も北海道が上川生産連に使用料を払って使わせてもらっていました。ですから、競馬場を壊すのも残すのも上川生産連のことで道も市も関与できないということです。

またパークゴルフ場を料金を払わないで使っている件ですが、私も何回か聞いたことがあり、そういったことがないように指定管理者に指示を出しているところですが、それでもそういった方が減らなければ、不正に入らないような対策などが必要なのかもしれません。それについてはまた調べてみたいと思います。

町内会の加入ですが、他のまちから引っ越されて旭川に住民登録をされた方には、その時に町内会の紹介の紙を渡しておりますが、強制力がないというのが本当に悩みの一つです。ただご案内は渡しております。なんとか加入率が上がればいいと思うのですが。

生活交流部長

今、市長からお話があったとおり、転入時に町内会の加入についてのチラシは配っているのですが、9月からは市民連協と連名で、例えば加入するために連絡先を知りたかったら連絡くださいとか、マンションやアパートの大家や管理者にも加入促進のための協力をお願いしたいというような、以前よりも詳しい内容のチラシを作りたいと考えており、できれば9月から配りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

参加者G

先ほど市の赤字が3千億円あるが何とかなると言われましたが、3千億円の赤字があって新しい事業ができるのでしょうか。赤字を減らすための対策は何を考えているのでしょうか。まず行政経費を少なくするために3千人の職員を半分にしてください。一人が倍の仕事をしてください。中小企業でこんな赤字があれば社員は寝ないで仕事をして会社を守ります。旭川市も同じです。市の行政に携わる人であれば、責任を感じて二人分の仕事をしてください。そうすることが行政経費を少なくすると思います。

市長

例えば市の職員を半分にしたら、どれだけ経費が浮くかという約70億円です。半分にするというのは極論だと思いますけれども、これからも人員のスリム化ということは私も是非進めていきたいと思っております。いきなり半分にすると明日から市役所がストップしてしまいます。将来的にはそういう方向に向かっていくのかなとは思いますが、来年、再来年にすぐできることではないということをご理解いただきたいと思っております。

参加者G

これから地方分権が進んできて、住民のニーズがどんどん増えてきます。それをお金がないからできないということでは困ります。住民のニーズはどんどん多様化してきます。行政もそれにしっかりと対応できるような考えをもっていただきたいと思います。

市長

おっしゃることは理解できますので、これからもしっかりと頑張っていきたいと思います。

参加者H

北海道知事や宮崎県知事が台湾でそれぞれの物産をPRしていました。それを是非とも市長にもやってほしいと思います。台湾だけでなく韓国や他の国でもいいので旭川を売り込みに行ってくださいと思います。

市長

私も市長に就任してから、東京に2回程行って、台湾のマンダリン航空に何とか旭川に定期便を飛ばしてもらえないだろうかとお願いしておりますし、知事にも千歳はもう満杯なので、次に飛ばす時には是非旭川にという話をさせていただいてます。知事も次は旭川や函館と言っておられました。その辺りは是非北海道とも連携してやっていきたい思いますし、直接私が行ってはいませんが、観光課の職員が香港ですとか台湾ですとか中国にこれまでも旭川の物産を売り込みに行っておりますし、私も是非任期中にそういう所に行き行ってやっていきたいなという思いはあります。

参加者D

市民課の入り口に駐車券に判を押す所があります。そこに3人くらい職員がいるのですが、判を押す時に一言もありません。そこは市役所の顔ですから、ありがとうございましたとかごろうさまでしたとかの一言があってもいいのではないのでしょうか。

市長

1階の総合窓口の話ですか。私から話しておきます。

市長終わりのあいさつ

限られた時間で、まだ発言されたかった方もいらしたと思いますが、そういう方には本当に申し訳ないですけれども、いろいろと多岐にわたるご意見をいただきましてありがとうございます。是非今日いただいた話を検討させていただいて、1日も早く結果として出せるように頑張っていきたいと思います。これからも町内のいろいろな活動でお世話になると思いますが、いろいろと行政に対して厳しいご意見もいただけるとありがたいと思いますのでよろしくお願いします。本当に今日はお忙しいところありがとうございました。